

# 公民的分野 現代の民主政治 ～制度及び、その制度の課題を教える授業からの脱却を目指した実践～

山梨大学教育学部附属中学校 梶原 隆一

## 1 はじめに

2017年10月22日、第48回衆議院議員総選挙が行われた。民主主義の政治（民主政治）が行われているわが国にとって、選挙が政治参加の最も一般的なものであると言えよう。しかし、これまでの選挙の状況を振り返ってみると、国民の政治離れが深刻であることが明らかになっている。国政選挙を例にすると、昨年実施され18歳以上の男女に選挙権が認められたことで記憶に新しい参議院議員選挙であるが、1947年第1回の同選挙の投票率は61.1%を記録していたのに対し、2016年第24回の同選挙では、投票率が54.7%であった（投票率は10代が46.7%、20代が35.6%、30代44.2%となっている）。同様に衆議院議員選挙を見ても、1946年第1回の投票率が72%を記録していたのに対し、直近の2014年第47回では52.6%と大きく低下している。また、衆議院議員選挙を例に記録が残るところで年齢別の投票率を見ると、1975年第31回の選挙と比べ20歳代の投票率が34%低下、30代の投票率も34%低下となっており、とりわけ若年層と呼ばれる人々の投票率の低下が課題となっている。特に、危惧すべきなのは選挙に行かない理由であろう。選挙管理委員会などの調査結果によると、「誰が当選しても、政治や自分の生活が変わらないと思ったから」という無力感や、「政治家は信頼できないから」という不信感、「政治のことは難しくよく分らないから」という政治に対する無知などがあげられている。

本校社会科では『社会の形成者としての資質・能力を育む授業の創造～社会科における「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』を研究主題に設定し、社会科における学びを通して以下のような生徒の姿を目指してきた。

「本当にそうなのか」、「なぜなのか」、「どうなるべきか」等、社会の有り様や在り方について様々な視点に立って思考し、自分が持つ認知の枠組みを広げたり、新たに作りかえたりすることができる姿

しかし、多くの社会科教師が深刻な政治離れの現状を危惧し、何とかしたいとは思っているものの、法や政治に関する内容の学習においては、制度についての理解や、その制度における課題についての理解で終わってしまっている授業が多いのではないだろうか。確かに、現状を認識する上で制度や、その制度における課題を理解することは大切なことであるが、その段階で学習を終えてしまうことで、社会科の目指す「公民的資質の基礎（次期指導要領では公民としての資質・能力の基礎）を養う」ことができるだろうか。また、そのような学習で、本校社会科が研究主題として掲げる「社会の形成者としての資質・能力を育む授業の創造」ができるのだろうか。そこで今回、「どうすれば制度やその制度の課題を教える授業」から脱却できるのかを考える契機としたいと思い、実践を行った。

## 2 単元計画（全7時間）

単元を貫く課題に「日本国民の政治参加には何か課題がないだろうか？」を設定した。学習前と学習後と同じ課題を問うことで、生徒は自己の見方・考え方の変容を実感することができるであろう。しかし今回はそれだけにとどめずに、政治参加を生徒により身近に感じてもらうための工夫として、日本国民の政治参加の課題に関する意見文を書かせ、新聞社へ投書することにした。

次 (時数)	主な学習活動	評価
1 (1)	<p>「日本国民の政治参加には何か課題がないのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現段階における学習課題についての自分なりのとらえを書かせる。</li> </ul> <p>「民主主義と政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動などの身近な事例から民主主義とは何か、理解する。</li> <li>・歴史的な経緯を踏まえ、民主主義の考え方が大切であるということに気づく。</li> <li>・多数決の長所と短所について、生徒の経験などをもとにしながらまとめる。その際、少数意見の尊重が必要であることに気づく。</li> </ul>	<p>・民主主義の考え方が大切であることを歴史的な経緯や身近な事例を踏まえて考え、適切に表現している。【思考・判断・表現】</p> <p>・議会制民主主義において、多数決の原理と少数意見の尊重が重要であることを理解している。【知識・理解】</p>
2 (1)	<p>「マスメディアと世論」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の新聞記事の一面を見比べさせ、新聞社によって取り上げ方が異なることに気づき、その理由について考える。</li> <li>・情報をそのまま鵜呑みにせず、様々な角度から読み取り、自分自身で判断する必要があることに気づく。</li> </ul>	<p>・新聞記事の構成や内容を比較し、気づいたことや考えたことを適切にまとめ、発表している。【思考・判断・表現】</p> <p>・課題に沿って新聞記事を収集・選択し、その内容を適切に読み取っている。【技能】</p>
3 (1)	<p>「政党と政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政党の政権公約を調べ、比較することを通して、政党や日本の政治について関心を持つ。</li> <li>・政党が国民と議会を結びつける役割を果たしており、民主政治において重要な存在であることに気づく。</li> </ul>	<p>・現在の日本の政党政治の動向や課題について意欲的に調べ、関心を高めている。【関心・意欲・態度】</p> <p>・政党の役割について、具体的な事例に基づいて理解している。【知識・理解】</p>
4 (3)	<p>「政治参加と選挙①」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙は政治参加において重要な機会であることに気</li> </ul>	<p>・選挙の意義と日本の政治制度のあらましについて理解してい</p>

	づく。 ・国政選挙を中心に選挙制度のあらましを理解する。	る。【知識・理解】
	「政治参加と選挙②」 ・選挙の課題として投票率の低下を事例に取り上げ、そのもたらす影響について立候補者・有権者それぞれの立場になって考える。 ・投票率が低下する中、選挙権が18歳に年齢を引き下げた理由を、新聞記事などから読み取り考える。	・投票率の低下がもたらす影響について、立候補者・有権者それぞれの立場から多面的・多角的に考察し表現している。 【思考・判断・表現】 ・選挙権が18歳に引き下げられた理由について、根拠となる資料を活用し、適切に読み取りまとめている。【技能】
	「政治参加と選挙③」 ・義務投票制を採用している国の事例を取り上げ、投票率が高いということが本当によいことなのかどうかを考える。 ・投票率が高い（低い）という数値の先にある、主権者として目を向けていかなければならないことについて考える。	・諸外国の選挙の様子から、投票率を向上させることについて吟味した上で、主権者として選挙において大切にしたいことを表現している。【社会的な思考・判断・表現】
5 (1)	「現代の民主政治のまとめ」 ・これまで学習したことをもとにして、「将来の主権者として考えること」を主題にした意見文を書く。	・日本国民の政治参加におけるこれからの在り方について、表現している。【思考・判断・表現】

### 3 単元全体の構造図（知識の構造図）：最終ページに掲載

### 4 授業の実際

#### (1) 授業展開

第1時

	発問 (◎)・質問 (○) 指示 (・) など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入	・前は、X市民になってみて、誰を市長にするべきかを考えることを通じて、政治に参加することについて考えてきました。 ◎日本の政治参加には、何か課題がないのだろうか？  ○A・Bの2つのグループの違いは何だろうか？  ・今日は、民主主義について学習していきましょう。	T：発問する S：考えをノートに書く S：書いたことを小グループ内で交流する T：質問する S：答える  T：学習課題を提示する	※前時に政治の学習の導入ということで、「新編 新しい社会 公民」(東京書籍)のP72・73「だれを市長に選ぶ？」を扱った。	・選挙に行かない。 ・政治に無関心 ・よくわからない  ・Aグループ：サウジアラビア、ラオス、ロシア、中国、北朝鮮（少数もしくは一人が国の権力を独占している政治が行われている国々） ・Bグループ：ドイツ、イギリス、スウェーデン、アメリカ、日本（民主主義が行われている国々）
展開Ⅰ	◎民主主義とはどのような考えなのだろうか？ ・Aグループの国々の政治と比較して考えてみよう。 ○民主主義の政治を実現するために必要な考え方とは何だろうか？	T：発問する  T：指示する S：推測して答える T：質問する S：推測して答える		・みんなで話し合って、みんなで決めるという政治の方法  ・一人ではなく、みんなで決めるというしくみ（＝国民主権） ・誰もが自分の意見を自由に述べる （＝自由権・平等権・個人の尊重）
展開Ⅱ	・生徒総会と評議会の写真を提示し、話し合いの仕方がそれぞれどのようなになっているのか考えさせる。  ○それぞれの話し合いの仕方の特徴は何だろうか？  ○話し合いの際、意見がまとまらない場合、多数決という方法を私たちは採用し	T：指示する S：推測して答える。  T：質問する S：答える  T：質問する S：考える	1	・同じ話し合いの場だけど、みんなで集まって話し合っている（＝直接民主制）か、代表者のみが集まって話し合っている（＝間接民主制）かという話し合いの仕方になっている。  ・直接民主制は人々が直接話し合いに参加できるという長所があるが、一度に大勢が集まるのは難しかったり、物事を決めるのに適さないという短所がある。 ・間接民主制は全員が集まる必要がないため決定しやすいという長所があるが、人々の意見が反映されにくいという短所がある。  ・多数決は多く人の意見を反映させることができるよい方法

	ますが、この方法は万能なのだろうか？	S：同じグループの生徒と意見交換をする S：グループ内で出た意見を発表する	だが、意見が採用されない人が不満を持つ可能性があるので、万能な方法とは言えないのではないかと ・万能な方法でないため、やみくもに多数決で決めるのは危険である。少数の意見も十分に聞いて、その意見をできるだけ尊重した上で多数決で決めるということをしていけば、多数決のデメリットが改善されるのではないかと
まとめ	◎民主主義とはどのような考えなのだろうか？	T：発問する S：学習したことをもとに、Aに書く	・民主主義とはみんなで話し合ってみんなで決めるという方法であるが、話し合いの仕方により、それぞれ長所や短所がある。 ・民主主義における決定方法として多数決があるが、万能な方法ではなく、長所・短所がある。

第2時

	発問 (◎)・質問 (○) 指示 (・) など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入	○これは何の写真でしょうか。  ○これらの調査はどんな組織が行っているのだろうか？  ○なぜ、私たちはマスメディアからの調査に対して、自分の立場を言えるのだろうか？  ・マスメディアが世論を形成しているのに大きな影響を与えていることが分かりますね。そこで、今日はマスメディアの中の新聞に注目して学習をしていきましょう。	T：質問する S：答える  T：質問する S：答える  T：質問する S：考える S：同じグループの生徒と意見交換をする S：グループ内で出た意見を発表する  T：学習課題を提示する	2	・世論調査 ・内閣支持率のグラフ ・ある政党の新代表になった政治家に対する期待度を表した調査のグラフ  ・テレビや新聞などのマスメディア  ・マスメディアから流される情報をもとにして、自分で判断しているからではないか？
展開 I	◎マスメディアとどのように向き合えば良いのだろうか？  ・新聞に対して自分が抱いている事をプリントに書きましょう。  ・3社の新聞を比較しよう。	T：発問する  T：指示する S：考える S：プリントに記入する。  T：指示する S：比較し、まとめ、発表する	3	・新聞は私たちに情報を伝えてくれる手段の一つ。 ・どの新聞も事実が記載されている。等  ・トップ記事に注目するとA社だけ自動車会社で起きた不正事件のになっているが、あとの2社は新しくできた政党の記事である。 ・同じ記事に注目してみると、3社とも同じような内容のことを報じている。
展開 II	・次にこの3社の新聞を比較しよう。	T：指示する S：比較し、まとめ、発表する	4	・トップ記事に注目して見ると、3社とも集団的自衛権のことを記事にしている。 ・見出しや内容に注目すると、各社で集団的自衛権のついでのとらえ方が肯定的だったり、否定的だったり異なっている。そのため、新聞の論調も新聞社によって違いが見られる。
まとめ	◎今日は、マスメディアとどのように向き合えば良いのかということについて考えてきました。最後に、新聞に対して自分が考えたことを改めて書いてみましょう。	T：発問する S：学習したことをもとにして、プリントに書く		・新聞は書かれている内容が同じだと思っていたが、社によってとらえ方が異なっており、書かれている内容も違うことがあるので、一社だけを見てすべてを知ったつもりになるのは偏った見方になってしまう恐れがある。複数の新聞を読み、一つの出来事を色々な角度から眺めたり、「本当にそうなのか？」と批判的に読んだりすることが大切である・・・等

第3時

	発問 (◎)・質問 (○) 指示 (・) など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入	○この人がリーダーを務めている組織を知っていますか？	T：質問する S：答える	5	・各政党の名称と党首の名前

	・今日は政党について学習していきましょう。	T：学習課題を提示する		
展開 I	◎政党は政治においてどのような役割を果たしているのだろうか？ ・政党とはどのような組織か、用語集を使って調べてみましょう。	T：発問する T：指示する S：調べ、答える	6	・政治に対する考え方や主張が同じ人々の集まり  ・A党とB党はどの政策においても反対の立場をとっている。 ・A党とC党はどの政策においても同じ立場をとっている。 ・D党はA党・C党に近い立場もあれば、B党に近い立場をとるなど政策によって立ち位置が異なっている。 ・このように各政党で考え方が異なるので、各政党ごとに政権公約（マニフェスト）を作成する必要がある。
	○資料からどのようなことが読み取れますか？  ○政党は国民の意見を集約することの他にどのようなことを行っているのだろうか？	T：質問する S：答える  T：説明する S：資料を見る	7	・支援者に対して、政治の動きを伝える国政報告会を実施している。
展開 II	○政党が政権公約を実現するために、どうすればよいだろうか？教科書P80③を参考にして考えてみよう。  ・教科書P80①から、日本の現時点における与党と野党の議席数はどのようにになっているのだろうか？また、教科書P80②から、諸外国では与党と野党の関係はどのようにになっているのだろうか？	T：質問する S：考える S：同じグループの生徒と意見交換をする S：グループ内で出た意見を発表する T：説明する S：資料を見る		・選挙で多くの当選者を出す（多くの議席を獲得する）。 ・内閣を組織し、政権を担う政党：与党 ・与党の批判や監視を担う政党：野党  ・日本ではA党とB党の2つの党が与党である（連立政権）。 ・イギリスは二大政党制になっている。 ・オランダは日本のように主な政党が3つ以上ある（多党制）。
まとめ	◎政党は政治においてどのような役割を果たしているのだろうか？	T：発問する S：学習したことをもとに、ノートに書く		・政党は国民の意見を集約して、国や地方公共団体の政治に反映させる役割や、政治の動きや政策を国民に知らせる役割を担っている。

第4時

	発問 (◎)・質問 (○) 指示 (・) など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入	○（映像の視聴後）なぜ、各政党の党首は全国各地で演説していたのだろうか ・今日は選挙の制度について学習していきましょう。	T：質問する S：答える T：学習課題の提示	8	・10/22に衆議院議員選挙が実施されるから。
展開 I	◎国の政治において、選挙はどのように行われているのだろうか？ ・教科書P76①②③の資料（明治期、戦後初、現在の選挙の様子を描いた資料）を提示し、それぞれの様子を比較させる。 ○3種類の資料を比較し、現在の選挙にはどのような特徴があるのだろうか？  ・読み取った特徴をもとに選挙の4原則を説明する。	T：発問する T：指示する S：資料を見る  T：質問する S：同じグループの生徒と意見交換をする S：グループ内で出た意見を発表する  T：説明する		・男女が投票所にいる。 ・記載所が仕切られている。  ・普通選挙、平等選挙、直接選挙、秘密選挙
	展開 II	○（映像の視聴後）今回の衆議院議員選挙はどのような選挙制度で行われるでしょう？ ・前回の衆議院議員選挙の結果を見ながら、それぞれの選挙制度のしくみや特徴を学んでいきましょう。 ※参議院議員選挙における選挙のしくみについては、後日、「国会」の題材の際に扱うこととする。 ○小選挙区制はどのような選挙制度で、どのような特徴がありますか？	T：質問する S：答える T：指示する S：資料を見る T：質問する S：答える T：質問する S：答える	9 10

	○比例代表制はどのような選挙制度で、どのような特徴がありますか？	T：質問する S：答える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落選者に投じられた票（死票）が多くなる。</li> <li>・大規模な政党に有利に働きやすく、議会で多数派が作られやすい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例代表制は、得票（衆議院議員選挙の場合、各政党への得票）に応じて各政党の議席数を決める制度</li> <li>・死票が少なく、少数意見が反映されやすい</li> <li>・候補者が遠い。</li> <li>・議会が多数の小政党によって構成されやすく、決定しづらい。</li> </ul> <p>※比例代表制については、ドント式の計算方法について触れ、事例をもとに算出できるような取組も行う。</p> <p>※衆議院議員選挙では重複立候補を可能にするなど、それぞれの選挙制度の弱点を少しでも補えるようにするための取組がなされているところにも触れる。</p>
まとめ	◎国の政治において、選挙はどのように行われているのだろうか？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の変化とともに選挙についても変化しており、現在では普通選挙、平等選挙、直接選挙、秘密選挙の4つの原則に基づいて選挙が行われている。また、選び方の制度もいくつかあり、それぞれに長所や短所が存在する。そのため、衆議院議員選挙では小選挙区制と比例代表制を並立した方法を採用している。</li> </ul>

第5時

	発問 (◎)・質問 (○) 指示 (・) など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前は選挙の制度を知るという授業でした。本時は選挙をこのような視点から見てください。</li> <li>○「投票率」に注目したこれらの資料からどのようなことが読み取れますか？</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに投票率は低下傾向ですが、国は何もしていないわけではありません。</li> <li>・今日は投票率に注目しながら、選挙について学習していきましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：説明する</li> <li>T：質問する</li> <li>S：答える</li> <li>T：説明する</li> <li>S：資料を見る</li> <li>T：学習課題の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 1</li> <li>1 2</li> <li>1 3</li> <li>～</li> <li>1 5</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衆議院議員選挙、参議院議員選挙ともに、年々投票率が低下傾向にある。</li> <li>・最近行われた衆（参）議院議員選挙では、60代の投票率は高いが、若い人の投票率が低い。特に、20代は低い傾向にある。</li> <li>・最近行われた参議院議員選挙では選挙権を得て間もない10代の投票率が、50%に達していない。</li> <li>・投票時間の延長をしている。</li> <li>・期日前投票を実施している。</li> </ul>
展開Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎なぜ、若者を中心に投票率が低いのだろうか？</li> <li>・若者が投票に行かない理由を考えてみよう。</li> <li>・実際に調査した結果を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：発問する</li> <li>T：指示する</li> <li>S：考える</li> <li>S：同じグループの生徒と意見交換をする</li> <li>T：説明する</li> <li>S：資料を見る</li> </ul>	1 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者意識がない。</li> <li>・忙しくて時間がない。</li> <li>・投票所へ行くのが面倒である。</li> <li>・支持する政党がない。</li> </ul>
展開Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若者の投票率が低いことで生じてくる影響としてどのようなことが考えられるだろうか？</li> <li>・2016年6月から日本で実施された18歳選挙権導入ののについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：質問する</li> <li>S：考える</li> <li>S：同じグループの生徒と意見交換をする</li> <li>S：グループ内で出た意見を発表する</li> <li>T：説明する</li> <li>S：資料を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 7</li> <li>1 8</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の声が政治に反映されない。</li> <li>・立候補者は、投票率の高い高齢者の意見を取り入れた公約を立てるかもしれない。</li> <li>・一部の人々によって国民の代表者を誰にするのか決められてしまうから、民主主義の危機につながるかもしれない。</li> <li>・世界の多くの国々では選挙権年齢が18歳である。</li> <li>・若者の声を更に政治に反映させたいというねらいから、日本でも18歳選挙権が導入された。</li> </ul>
まとめ	◎なぜ、若者を中心に投票率が低いのだろうか？			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人くらい行かなくても」とか、「自分には関係ない」、「忙しいから行けない」という考えが若者に多く、投票率を下げる原因だとわかった。投票数の高い年代が有利な政治にならないように、多くの年代が同じくらい投票するべきであると思った。多くの人が政治に参加することで民主主義の世の中に近づくとと思う。</li> </ul>

	発問 (◎)・質問 (○)・指示 (・) など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
<p>導入</p> <p>・前回の授業では日本の選挙における課題について学習してきました。 ○どのような課題がありましたか？</p> <hr/> <p>○これは何について表したグラフでしょうか？</p> <p>○なぜ、このような違いが見られるのでしょうか？</p>	<p>T：説明する</p> <p>T：質問する S：答える</p>		<p>・日本では、投票率の低下が問題となっている。</p> <p>・投票率が低いと、一部の人たちだけで物事を決めることにもつながるので民主主義の危機につながる恐れがある。だから、投票率を向上させなければならない。</p> <p>・特に、若者の投票率が低く、若者の声を政治に反映させにくい現状があることや、世界的に18歳で選挙権を認めるのが多いことから、日本でも昨年から選挙権年齢が18歳以上の男女に引き下げられた。</p>	
	<p>&lt;前時までの学習を通じて、生徒が抱いていると予想される見方・考え方&gt;</p> <p>・日本では若者を中心に、投票率の低下が問題になっており、投票率を向上させていく必要がある。投票率が高いと、たくさんの有権者が参加して決定するということなので、民主主義に基づく政治の実現につながるため、良いことである。</p>			
<p>展開 I</p> <p>◎投票率が高いことは良いことなのだろうか？</p> <p>・義務投票制を採用している国での選挙の様子はどうなっているのだろうか？</p>	<p>T：発問する</p> <p>T：説明する S：資料を見る</p>	<p>19</p> <p>20 ～ 22</p>	<p>・日本とオーストラリア、ベルギーの投票率を表したグラフ</p> <p>日本 : 54.7% (2016) オーストラリア : 93.2% (2013) ベルギー : 89.3% (2014)</p> <p>・これらの国々は日本と異なり、義務投票制を採用している国である。義務投票制を採用している国は世界に32か国ある。日本は、投票に対して義務を課さない任意投票制(自由投票制)を採用している。</p>	
	<p>れた選挙では、全投票数の6%が無効票(昨年、日本で実施された参議院選挙での無効票は2.5%)であり、イギリス放送協会(BBC)はオーストラリアで義務投票制への反発が起きているのではないかと報道した。</p> <p>・ベルギーでは、投票の義務を怠った場合、罰金を支払わなければならないが、2回目以上になると、支払う額が2倍になる。さらに、15年間で4回以上投票を怠ると、選挙権を10年間失い、公職にも就けなくなる。もし公務員だったならば、昇進も差し止められてしまう。投票の際に白票を入れることは認められているため、無効票の割合が多いという問題点がある。</p>			
<p>○世界には、投票率が約99%を誇る国があります。どんな国だと思いますか？</p> <p>・ベトナムの選挙の様子は、どうなっているのだろうか？</p>	<p>T：質問する S：答える</p> <p>T：説明する S：資料を見る</p>	<p>23 24</p>	<p>・オーストラリアやベルギー以上に厳しい罰則のある国なのではないか。</p> <p>・一つの政党が独裁政治をしている国ではないか。</p>	
	<p>・ベトナムは日本と同じ自由投票制を採用する国である。2016年に行われた選挙の投票率は98.7%だった。</p> <p>ベトナムでは、投票所が学校などの公共施設の他に、会社の中やマンションのロビーのように町中の至る所に設けられていて、投票に行きやすい環境が整えられている。しかし、投票率が低いと地区ごとの選挙管理委員会が成果を問われるため、投票所に来ない人がいると委員がその家に足を運び、投票に来るように促す。また、投票所に来た際、身分証明書の提示をしなくて良いので、家族を中心に代理投票が横行している。そのため、これまで一度も投票所を訪れたことのない人もいる。</p>			
<p>◎高い投票率を誇る国々の様子を見てきましたが、投票率が高いことは良いことなのだろうか</p>	<p>T：発問する S：考えをホワイトボードにまとめる S：発表する</p>		<p>・罰則を設けることで、投票率が上がるのであれば、日本も取り入れるべきではないか。</p> <p>・投票を義務制にすることは、参政権の侵害になるのではないか。</p> <p>・投票率が高くても、無効票が多いのであれば意味がないと思う。</p> <p>・投票率が98%でも、代理投票が横行しているのであれば、しっかりと選挙が行われていないと言えるのではないか。</p>	

<本時のここまでの学習を通じて、新たに作りかえられたり、変容したりして いくことが予想される生徒の見方・考え方>  
 ・日本では若者を中心に、投票率の低下が問題になっていて、投票率を向上させていく必要がある。投票率が高いと、たくさんの有権者が参加して決定するということなので、一見すると良さそうに見えるが、選挙への参加が強制だったり、代理の人によるものだったりするのは、民主主義に基づく政治の実現につながらないのではないかと。投票率という数字だけで判断するのは、危険である。大切なのは一人一人の有権者が投票に向かう前に、日頃から政治と自分の生活とのつながりを感じたり、政治について仲間と語り合ったりして政治を身近なものにとらえていることではないだろうか。

<p>展開Ⅱ</p>	<p>○選挙の課題として、前の授業で日本における投票率の低下問題注目し、今日の授業では高い投票率を誇る世界の国々の様子に注目して考えてきましたが、主権者としての私たちが本当に目を向けていかなければならないことは何でしょうか？</p>	<p>T：発問する S：思考する S：自分の考えを紙に書く S：同じグループやクラスの仲間と意見を交換し、ホワイトボードにまとめる S：発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TVや新聞で政治の話題について関心を持って見る</li> <li>・無関心からの脱却</li> <li>・家族や仲間と政治的な話題について語り合う。</li> <li>・日本にはどんな政党があって、どんな理念で政治活動を行っているのかを調べるなど、とにかく政治についての知識を身につけること。</li> <li>・人任せにしない。</li> <li>・議会を傍聴しに行く。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>・今、みなさんが考えてくれたことのいくつかを既に行っている国があります。どの国だと思いますか。</p> <p>・今日の学習で学んだことや考えたことを授業前の自分の考えと比較しながら、ワークシートに記述しよう。</p> <p>・この単元のまとめということで次回、「将来の主権者として考えること」という主題で意見文を書きます。</p>	<p>T：質問する S：答える T：説明する S：聞く</p> <p>T：指示する S：書く</p> <p>T：説明する</p>	<p>25 26</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェーデンの様子を紹介する。家族で政治的な話題について語ったり、12歳から政党に入ることができたり、地域の政治家が来校し討論したりする等政治を身近に感じられる環境が作られている。ちなみに、日本と同じく任意投票制を採用しており、投票率は83%（2014年）。18歳～24歳の投票率は約82%と、若者の投票率が高い。</li> <li>・投票率が高いのが良いと思っていたが、投票率が高くても無効票や自分の意見を持っておらず投票させられていたのでは選挙の本来の意味が薄れると考えられる。大切なのは、一人一人がしっかりとした意志をしっかりとって投票することではないだろうか。</li> </ul>

第7時

・単元のまとめとして、学習してきたことをもとにして、「将来の主権者として考えること」というテーマで意見文を作成させた（題名は生徒個々に任せた）。提出された意見文は教師の点検後、地元の新聞社（山梨日日新聞）に送り、数名の生徒の意見文が以下のように掲載された。

**投票は義務だが  
まず意見明確に**

◇さりげなく聞こえてくる、衆議院議員選挙のニュース。衆院選は、私たちの生活にどう影響しているのか。衆議院ではいくつもの政党に所属している議員がそれぞれ、私たちのためにマニフェストを提示している。党派によって、マニフェストに違いが生まれる。それを国民が解釈して、選挙に参加する。これらの過程を経て、私たちの生活に変化が生まれてくる。

◇選挙の現状として、若者の投票率が特に低いことや、高齢者の投票率は若者の投票率より高いことなどがある。その現状を知った人々は、「若者の意見をもっと取り入れるべきだ」とか「全体的に投票率を上げるべきだ」と述べている。しかし、果たして投票率を上げることだけが、重要なのだろうか。私は、そうは思わない。選挙への参加を義務としている国の現状を見ると、投票率は高いが、白票が多いことがある。

◇義務にすることによって、選挙への参加が面倒だと思ひ、自分の考えを持たないで投票する人もいるようだ。私は、投票率を上げる以外にも、もっと重要なことがあると思う。投票した意見が本当に自分で考えた意見の表れで、偽りがなく、自分たちの望む生活にならなければ意味はない。私たちがすべきことは、自分の意見を明確に持った上で、選挙に参加することではないのか。

(山梨大付属中3年・[名])

**国をつくるため  
選挙権の行使を**

◇選挙権について、もったいないという感情が生まれてきた。私はまだ15歳で選挙権はなく、学校で教育を受けている。公民の授業で日本の政治

国をつくるため、選挙権の行使を。国をつくるには、国民の意思が上へ上へと伝わり、国を成り立たせている。せつかくの選挙権だ。私の学校には、政治のあり方について真剣に向き合い、考える人がたくさんいる。まだ選挙権がない15歳。一方、選挙権を持っていても、投票しない人が

にいて学ぶ。授業で見たグラフに私は驚いた。投票率のグラフだ。他の国に比べ割合が低く、20代の投票率が最も低い。日本は民主主義国家である。国民主権が保障され、参政権がある。1人1票という公正な方法で、選挙が行われている。

◇選挙は国に自分の意思を訴えるための一つの方法だと、私は思う。選挙によって、国民の意思は上へ上へと伝わり、国を成り立たせている。せつかくの選挙権だ。私の学校には、政治のあり方について真剣に向き合い、考える人がたくさんいる。まだ選挙権がない15歳。一方、選挙権を持っていても、投票しない人が

がたたくさんいる。その理由はさまざまだが、使われていない選挙権を、私たちは欲しいと思う。

◇選挙権がなくても、政治のあり方について考えている人はたくさんいる。だからこそ、選挙権を持つている人は責任を持って票を投じなければならぬと思う。国をつくるのは国民である。その機会を無駄にしないでほしい。投票率の低さが問題になっている今、これからの日本をつくるべく、これからは私たちが政治について考えさせられる公民の授業は、未来をつくる土台となる大切な時間なのだ。

(山梨大付属中3年・[名])

(2) 授業において使用した資料とその出典

- 1 生徒総会と評議会の写真…山梨大学教育学部附属中学校ホームページ <http://www.wgr.yamanashi.ac.jp/modules/information/details.php?bid=24>
- 2 内閣支持率についての世論調査…NHKが2017.9/29～10/1に実施した世論調査の結果をもとに授業者がグラフ化した
- 3 新聞記事…2017.10/4付の朝日新聞・読売新聞・毎日新聞の一面
- 4 新聞記事…2014.7/2付の朝日新聞・読売新聞・産経新聞の一面
- 5 政党の

党首の顔写真と氏名… 2017.10/10 毎日新聞電子版 <https://mainichi.jp/senkyo/articles/20171010/k00/00e/010/190000c> の記事をもとに授業者が表にまとめた 6 各政党の政策比較…時事通信社時事ドットコムニュース [https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve\\_pol\\_election-syugin2017-policycomparison](https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_pol_election-syugin2017-policycomparison)

7 国 政報告会の様子… <http://kamiyamaaichi.blogspot.com/2014/06/615.html> 8 2017 衆議院議員選挙に関するニュース動画… 2017.10/10 のテレビ朝日のニュース映像 (各政党党首の第一声を報じたニュース) を使用 9 2017 衆議院議員選挙のに関するニュース動画… 2017.10/10 のNHKのニュース映像 (選挙の公示と選挙のしくみや定数を報じたニュース) を使用 10 2012 及び 2014 衆議院銀選挙における小選挙区・比例代表の結果…読売オンラインの記事をもとにして授業者がグラフ化した <https://www.yomiuri.co.jp/election/shugiin/2012/>, <https://www.yomiuri.co.jp/election/shugiin/2014/>

11 衆議院及び参議院議員選挙における投票率の推移…総務省ホームページ 国政選挙における投票率の推移のデータをもとに授業者がグラフ化した [http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/news/sonota/ritu/](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/ritu/) 12 衆議院及び参議院議員選挙における年代別投票率の推移…総務省ホームページ 国政選挙における年代別投票率の推移のデータをもとに授業者がグラフ化した [http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/news/sonota/nendaibetu/](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/) 13 2017 衆議院議員選挙ポスター…総務省報道用資料 [www.soumu.go.jp/main\\_content/000511677.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000511677.pdf) 14 神奈川県選挙管理委員会が 2014 年に作成した選挙ポスター…神奈川県選挙管理委員会ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/em7/cnt/f5/p648589.html> 15 鹿児島県選挙管理委員会が 2014 年に作成した選挙ポスター…明るい選挙推進協会ホームページ <http://www.akaruisenkyo.or.jp/2012syugi/local/1915/> 16 平成 26 年衆議院選挙の主な棄権理由…明るい選挙推進協会の調査結果を授業者がグラフ化した

17 18 歳選挙権を呼びかけるために総務省が作成したポスター… 18 歳選挙権についての総務省の特設ホームページは閉鎖されている。 18 18 歳選挙権の導入を説明した動画…エクスプレッション「選挙権の変」… 18 歳選挙権についての総務省の特設ホームページ閉鎖に伴い、現在視聴不可 19 日本・オーストラリア・ベルギーの投票率を表したグラフ…IDEA (民主主義・選挙支援国際研究所) が 2014 年に調査した各国の国政選挙の投票率のデータを授業者がグラフ化した 20 オーストラリア投票率 90% 以上の秘訣はソーセージ?…NHK 世界選挙紀行ホームページ <https://www.nhk.or.jp/senkyo/chisiki/ch18/20160304.html> 21 オーストラリアの選挙制度に疑問を投げかけるイギリス BBC のニュース記事…授業者が記事を和訳・要約した <https://www.bbc.com/news/world-asia-23810381> 22 ベルギー投票しないと罰金! 出世にも影響?…NHK 世界選挙紀行ホームページ <https://www.nhk.or.jp/senkyo/chisiki/ch18/20160318.html> 23 日本・ベトナムの投票率を表したグラフ…IDEA (民主主義・選挙支援国際研究所) が 2014 年に調査した各国の国政選挙の投票率のデータを授業者がグラフ化した

24 ベトナムの投票率が高い秘密:ベトナムの選挙制度ホームページ <https://life.viet-jo.com/howto/basic/357> 25 スウェーデンの若者の政治参加の様子…インターネットサイト「スウェーデンに学ぶ、選挙権を 18 歳に下げただけじゃ不十分な理由」 [https://www.huffingtonpost.jp/tatsuei-morozumi/swe-den-vote\\_b\\_9667068.html](https://www.huffingtonpost.jp/tatsuei-morozumi/swe-den-vote_b_9667068.html) 26 日本とスウェーデンの国政選挙における投票率…東京新聞の記事をもとに授業者がグラフ化した <http://www.tokyo-np.co.jp/senkyo/kokusei201607/zen/CK2016061702000198.html>

## 5 おわりに

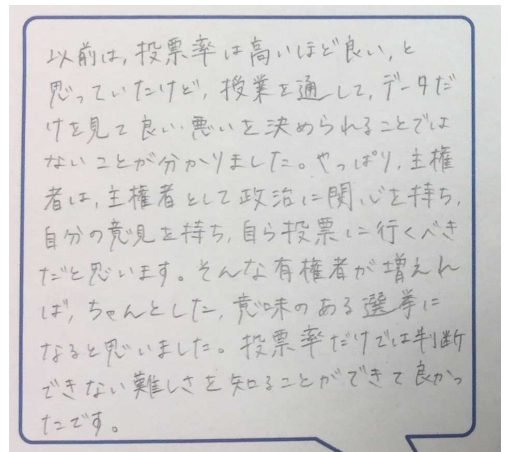
本実践は、「制度や制度の課題を教える授業からどうすれば脱却できるのか」というところからスタートした。脱却をするための手立てとして、本校で今年度 (平成 29 年度) 取り組んだ「見方・考え方」を働かせた学びとなるよう意識して授業を行ってきた。なお、「見方・考え方」については、池野範男氏の見解を山梨大学の共同研究者の先生方と、私たち附属中社会科の担当教員とで解釈し分類した。

右の資料は、6 時間目の授業を終えた後の生徒の記述である。この記述を見ると、生徒個人が元々有していた認識 (投票率が高いのは良いこと) が、資料の読み取りや、仲間との交流を通して、「より高次に」・「より深い認識に」作りかえられていることがわかる (本校の分類で言うところの“メタ認知型の見方・考え方”)。

生徒が「こういう制度があり、こういうことが課題となっている」という表面的な認識 (私自身のこれまでの実践でよく見られた形態) から脱却し、「本当に投票率が高いことは良いことなのか?」・「もしそうでないとするならばどうあるべきか?」といったように、前述の「社会科の学びを通して育てたい生徒の姿」に近づけたことは大きな成果であると言える。また、学習した成果を新聞社への投書を通じて社会に発信することができたことは、生徒に「社会の形成者」としての「資質・能力」を育みたいと考えている私たちにとって有効な手立ての一つだったと言える。

一方で、「見方・考え方」に縛られすぎると、「見方・考え方」を働かせることが目的になってしまう恐れが出てくるということである。次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業が求められているが、このような学びをすることが目的なのではなく、このような学びを通して「資質・能力」を育むことを目的としている。このことを常に念頭に置いて授業を実践していかなければならないであろう。また、単元の最初に提示した学習課題「日本国民の政治参加には何か課題がないのだろうか?」と、単元の最後の「将来の主権者として考えること」の意見文の作成が本当に関わりがあるものなのか、一つの単元として考えたときにこの流れで良かったのかという面に関しては大いに課題が残る。単元全体を貫く課題と毎時間毎時間の学習課題のつながりを考える、言わば「学習をどのようにデザインするのか」という面においても更に研究を深めていきたい。

結びに、本実践をしていくにあたり、ご支援やご指導をいただいた県教育委員会 佐藤雄二先生、山梨大学大学院 服部一秀先生、後藤賢次郎先生、研究協力員の先生方に心より感謝を申し上げます。



## 6 参考文献

- ・「中学校学習指導要領」 (2017) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説」 (2017) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領」 (2008) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説」 (2008) 文部科学省
- ・大西裕編「選挙ガバナンスの実態 世界編」(2017) ミネルヴァ書房
- ・斎藤一久編「高校生のための選挙入門」(2016) 三省堂
- ・「シリーズ日本の政治4 政治参加と民主政治」(2016) 東京大学出版会
- ・「話したくなる世界の選挙～世界の選挙をのぞいてみよう～」(2016) 清水書院
- ・日本学術会議 政治学委員会 政治過程分科会「提言 各種選挙における投票率低下への対応策」 (2014)
- ・アントレ レイナルト「民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36か国比較研究」 (2005) 勁草書房
- ・池野範男、渡部竜也、竹中伸夫「国家・社会の形成者を育成する中学校社会科授業の開発」 (2004) 日本社会科教育学会 社会科教育研究